

⑤0 銀山に巨大風車が建つ計画があります。

ネットで、見つけた！ 大分県でも困っています・・・

『大分県の風力発電を考える』(<https://thinkwindpoweroitahateblo.jp/>)

(風力発電を考える会おおいたのブログです。)(2021年9月8日)より

(仮称)大分・臼杵ウインドファーム事業に対する住民の声！(抜粋)

<https://thinkwindpoweroitahateblo.jp/?page=1649443692>



山野(大志生木在住。風力発電を考える会おおいた世話人)

低周波音被害は心身の健康に大きな影響があることを知り、大変なことだと思って、地元説明会で質問すると、関西電力は「低周波音による被害はない」と答えた。

関西電力管内である和歌山で被害があると聞いていたので、尋ねなおしたら「和歌山でも被害はない」と言い切った。国の検討会報告を錦の御旗のようにして自信すら見せて答えた。

植田(風力発電を考える会おおいた事務局長)

低周波音の健康影響についての環境省の検討会報告は要するに「わからない」という結論だが、「わからない」のを「ない」と説明するのは誤りではないか。

田村(衆院議員)

天下の関西電力が、九州の適地でないところ、住居と1kmしか離れていないところに乗り出してくる案件については、厳しい目を持たなければいけない。情報開示しない、平気ですをつく、ボス交渉で見かけの同意を取り付けるといふ生々しい経緯がある。一尺屋の民意はあらわれている。やり方として乱暴。大臣は私の質問に対し、住民トラブルの回避、環境影響の回避の2点を何度も強調しているが、実態としてはそうっていない。

伊藤(反対住民)

事業の内容の説明をちゃんとせずに、情報の粗い地図しか見せなくて、これに同意しろと言われてもできない。どこに土砂を出すのかもわからない。

環境影響評価準備書の「改変区域」という図は、標高も入っていない等高線しか載せていない。重要な大分市道や広域農道を意図的に消して、風車の建設場所がわからないようにしているとしか思えない。秘密主義だ。

地区によって説明が違う。

関西電力は嘘ばかりついている。バブル時代の地上げ屋の手法だ。・・・

風車の規模についても、当初計画では2千KWの風車13基となっていたのが、現在の計画では3.2千KWの風車を8基になっていて、5基減らしても出力がほとんど変わらないように風車の規模を大きくする計画変更をしている。関西電力の説明は嘘ばかりで、地元住民は関西電力の言うことを信用していない。

「(仮称)余市・古平・仁木ウインドファーム事業」と同じことが、大分でも起きている？

まだ、風力発電のことを、知らない方が、沢山いるみたいです。風力発電のことを知らせて、署名を増やしましょう。